

輸血・細胞治療における看護師のタスクシフト・シェアに関する シンポジウム開催報告

—多様な実践例を多職種で議論する「場づくり」の工夫の意義—

猪越ひろむ^{1)*} 佐藤 智彦^{2)*} 中野 恵美³⁾ 佐藤 孝子⁴⁾ 谷口千賀子⁵⁾
石井 修⁶⁾ 杉本 達哉⁷⁾ 鳥越 美洋¹⁾ 野崎 昭人⁸⁾ 金子 誠⁹⁾

本稿は、第159回関東甲信越支部例会の看護師関連シンポジウム「輸血・細胞治療における看護師のタスクシフト・シェアの実践」の開催報告である。ここでは、4名の看護師が手術室、造血細胞移植、透析、I&A視察における実践例を紹介し、臨床検査技師と輸血部医師が指定討論者としてコメント・質問をした。総合討論では、タスクシフト・シェアの課題やメリット、デメリットについて意見交換がされた。こうした多職種による議論が深まった背景には、Webでの打ち合わせやメールでの情報共有といった事前準備とそのファシリテーションがあり、それらが関係者全員の事前のテーマ理解の深化に寄与したことが示唆された。本報告は、輸血・細胞治療領域における看護師のタスクシフト・シェアの多様性を示すとともに、多職種連携による安全で質の高い輸血・細胞治療を推進するためのシンポジウム開催のあり方を考える機会を提供する点で意義があると考えられた。

キーワード：看護師，タスクシフト・シェア，輸血・細胞治療，多職種連携，ファシリテーション

はじめに

医師の働き方改革を進めるためのタスクシフト・シェアの推進に関する検討が2019年に開始されて以降、各医療施設では様々な準備のもとでの導入が進められてきた¹⁾。2022年には、日本看護協会より「看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活用ガイド」が公開され、看護職が持つ専門性を最大限に活かし、多職種との協働を進めるための方向性が示された²⁾。輸血・細胞治療領域は、多職種連携のもとで成り立っており、本領域でのタスクシフト・シェアは、本学会学術総会や支部例会、合同輸血療法委員会などで議論されてきている。2024年4

月に医師の時間外労働の上限規制が導入され、各施設でのタスクシフト・シェアが本格化したことを受けて、第159回支部例会(2025年2月8日開催：以下、本会)では、「輸血・細胞治療における看護師のタスクシフト・シェアの実践」をテーマに看護師関連シンポジウムを開催した³⁾。看護師による多様な実践例をもとに、タスクシフト・シェアの課題や今後の展望について多職種で議論を深めるために、プログラム構成の工夫や登壇者・座長の準備状態(レディネス)の向上など、入念な事前準備を行った。本報告では、シンポジウム実施までの準備の流れとともに、当日の議論内容を示し、同テーマの今後の展望について考察する。

- 1) 千葉大学医学部附属病院看護部放射線・中央診療施設輸血・細胞療法部担当
- 2) 東京慈恵会医科大学附属病院輸血・細胞治療部
- 3) 東京都立病院機構東京都立墨東病院看護部
- 4) 東京医科大学病院造血細胞移植コーディネーター
- 5) 東葛クリニック病院看護部
- 6) 国立病院機構相模原病院看護部
- 7) 東海大学医学部附属病院臨床検査技術輸血室
- 8) 横浜市立大学附属市民総合医療センター輸血部
- 9) 社会福祉法人三井記念病院臨床検査部

*共筆頭

連絡責任者：猪越ひろむ，E-mail：D7093222@chiba-u.jp

〔受付日：2025年4月11日，受理日：2025年6月16日〕

表1 シンポジウム開催までの準備スケジュール

実施時期と内容	実施者	企画者・例会長 医師	シンポジスト 看護師	指定討論者 医師・臨床検査技師	座長 医師・看護師
	時期	内容			
5カ月前～ 企画 (所要時間 2週間)	企画・発案	企画	-	-	-
	依頼	企画相談、演者、 座長等の選出・依頼	-	-	-
	演者選出	依頼受領	4名決定	2名決定	2名決定
1カ月前～ 2週間前 内容準備	Web 打ち合わせ	趣旨の説明・内容と 進行の提案	報告内容の提案	討論内容・質問等の 打ち合わせ	シンポジスト報告内容、 指定討論の確認 討論の流れの確認
	依頼書作成・送付 発表資料作成依頼・収集	依頼書送付	抄録、スライド準備	抄録、スライド準備	打ち合わせ内容確認 当日の進行内容確認
当日	シンポジウムの運営		当日の打ち合わせ ・ シンポジウム登壇		

シンポジウムの趣旨

輸血・細胞治療領域における看護師のタスクシフト・シェアが各医療施設でどのように導入・実践されているのかを紹介し、今後の看護師のタスクシフト・シェアの発展に寄与することを趣旨とした。

活動報告：①事前準備

事前準備の流れを表1に示した。指定討論者(医師)と座長(看護師)の2名がこの一連の準備のファシリテーションを主に担った。

1. 企画・発案

輸血部医師(第2著者)の教育領域における過去の経験を援用し^{4)～6)}、上述の趣旨のもとで、タスクシフト・シェアを実践している異なる背景の看護師4名をシンポジストに、輸血部医師1名、臨床検査技師1名を指定討論者に、輸血・細胞治療に従事する看護師1名と医師1名を座長にして、計8名の多職種によるシンポジウムを企画・発案した。多様な実践例について多職種で議論できる「場」とするため、上記関係者の間で、事前の複数回のやり取りから互いの発表内容を共有することを提案し、支部例会長の合意を得た。

2. 関係者の選出と事前打ち合わせ

支部主要メンバーに趣旨を説明し、タスクシフト・シェアを実践している看護師および臨床検査技師を推薦し、シンポジスト、指定討論者としての参加の内諾を得た。シンポジスト候補には、自施設での実践内容をあらかじめ知らせてもらった。支部主要メンバーの一部に座長としての参加を打診し、その内諾を得た。

8名が確定した後、Webでの事前打ち合わせを実施した。関係者の初顔合わせの機会となる打ち合わせでは、4名のシンポジストが自施設での実践の概要を説明し、2名の指定討論者と2名の座長がその内容を把握した。当日の発表にあたり、自施設でのタスクシフト・

シェア導入の経緯、実践して見えた課題を盛り込むことを各シンポジストに依頼し、発表抄録・スライドを作成してもらった。この打ち合わせに参加した支部例会長からは、会全体のテーマに関する説明と、このシンポジウムに登壇する関係者への感謝が伝えられた。

Webでの打ち合わせを経て、2名の指定討論者には輸血部医師または臨床検査技師の立場から4つの実践例を踏まえたコメントおよび総合討論に向けた質問の検討を依頼し、その発表資料を事前に関係者に共有した。

座長2名は、当日の時間配分を検討し、シンポジストと指定討論者からの資料をもとに総合討論の進め方について、メールでの複数回のやり取りを通してあらかじめ協議した。

活動報告：②シンポジウム当日

当日の開始前に、関係者全員で初めて対面での打ち合わせを行い、進行の流れを確認した。発表・議論の概要は以下の通りである(表2)。

1. 実践例：手術室でのタスクシフト・シェア

手術室では、回収式自己血輸血に関する業務量が増加しインシデントも発生していた。そこで、患者の利益を最優先に考え、組織全体で患者中心の医療を提供するための多職種ワーキンググループを立ち上げた。そして、院内業務の効率化と役割分担の見直しにより、各業務を明確化するための多職種向け「回収式自己血輸血マニュアル」を作成し、看護管理者の主導で、タスクシフト・シェアを推進した。同マニュアルを用いた職員向け教育・研修を実施し、メンバーの負担軽減、他部門との調整を行い、見直しや改善を重ねている。

2. 実践例：造血細胞移植のコーディネート

病棟看護師との兼業で造血細胞移植コーディネーター(以後、HCTC)を務めてきたが、移植医療の質向上に

表2 シンポジウムの内容と要点

事例紹介（シンポジスト）	発表内容
実践例1 手術室でのタスクシフトシェア	主な論点：多職種からなるワーキンググループでのタスクシェア・シフトの推進 多職種連携のもとで手術室の回収式自己輸血業務に関するマニュアルを作成し、その研修を実施して、関連業務の改善を図った
実践例2 造血細胞移植のコーディネート	主な論点：チームビルディングによる体制整備と移植医療の質向上への取り組み 造血細胞移植コーディネートの専任化後、チーム構築で業務体制を整備し、医療の質向上を図った
実践例3 透析室でのタスクシフト・シェア	主な論点：臨床工学技士・臨床検査技師とのタスクシフト・シェアの検討 透析室輸血業務のタスクシフトに関する調査から、臨床工学技士との業務共有の可能性と課題を明らかにした
実践例4 I&A 視察チーム	主な論点：認定看護師の活躍の場の拡大の可能性 輸血看護師のI&A 視察参加経験は、自施設での多職種連携の強化、そして輸血適正使用に貢献する可能性を示した
4つの発表から見える現状	・輸血・細胞治療領域におけるタスクシフト・シェアの導入が各現場で進められている ・各施設におけるタスクシフト・シェアの実施状況は多様であることがうかがわれる
指定討論	発表内容
臨床検査技師	主な論点：臨床検査技師・看護師・医師によるアフエレーシスでの多職種連携 輸血・細胞治療領域の課題を概括し、多職種連携によるアフエレーシス事例を通じて協働の重要性を示した
輸血部医師	主な論点：タスクシフト・シェア導入後の振り返りの機会 輸血・細胞治療部門の課題を提示し、タスクシフト・シェア導入後の負担や振り返りについて質問をシンポジストに投げかけ議論を進めた
総合討論	・輸血業務における多職種連携の課題とタスクシフトの現状、今後の展望について活発な意見交換が行われた
今回で見た課題	・タスクシフトされる看護師の負担が増加する可能性 ・タスクシフト・シェア導入後の振り返りの方法が不明確 ・輸血業務での多職種連携における互いの業務内容の理解不足 ・シフトされる側への教育体制の整備の不十分さ
今後の展望	・施設の事情に合わせた効果的なタスクシフト・シェア推進の必要性 ・多職種が協調性あるタスクシフト・シェアを進める必要性 ・タスクシフト・シェアが専門性を活かした業務分担だという認識の拡大 ・現状と課題を共有して今後の方針を検討する重要性
まとめ	・本シンポジウムは、輸血・細胞治療領域における看護師のタスクシフト・シェアの現状と課題を共有し、今後のチーム医療のあり方を多職種で考える機会となった

向けて専従となった。その後、HCTCを中心としたチームビルディングによる業務体制の整備から、移植医療の質向上、医師の業務量軽減、患者・家族の支援、多職種との連携が可能となった。移植チーム全体で「患者さんにとって最良の医療を提供する」という目標を共有している。HCTCとして、移植チームメンバー、特に医師の思考を十分に理解し、チームの窓口となり、チーム内の心理的安全性を担保することで、チームのモチベーション向上に貢献することを念頭に業務にあたっている。

3. 実践例：透析室でのタスクシフト・シェア

透析室での輸血業務でのタスクシフト・シェアに関する施設内アンケート調査を行い、臨床工学技士との輸血照合業務のシェアは可能であるが、それには、輸血に関する知識・技術の習得が必要であることがわかった。臨床検査技師への輸血同意書受領のシフトは、臨床検査技師の多忙さと輸血業務への関わりの少なさから、現状では困難であることが示された。この調査を通して、同施設での課題を今後検討する必要性が認識された。

4. 実践例：I&A 視察チーム

本学会I&A 視察チームでは、認定医、認定検査技師、輸血看護師の協働が必要であるが輸血看護師の参加が少ない。輸血看護師がI&A 視察に参加する利点は、看護師としての現場経験を生かした点検・指導ができることであり、そのI&Aでの視察経験は、自施設の血液製剤の使用状況を把握し、輸血療法委員会での適正使用推進への助言という形で生かすことができる。I&A視察は、輸血看護師の役割を十分発揮できる機会であり、看護師の視察員を増やすことが今後の課題である。

5. 指定討論

臨床検査技師からは、輸血・細胞治療領域を取り巻く環境の変化、タスクシフト・シェアに関する医療体制の課題が提示された。そして、自施設での多職種連携によるアフエレーシスの実践例が提示され、その協働がより良い臨床貢献につながる事が伝えられた。

医師からは、輸血・細胞治療部門における多様な業務を、安全かつ円滑に実施するためのチーム医療と、看護師の多様な働き方について言及があった。また、4名からの事例は、看護師の多様な働き方の実践例とも

表3 本シンポジウムにおけるファシリテーションの要点（企画者の視点から）

演者に向けて	・シンポジウムのテーマと方向性をあらかじめ明示して、テーマ理解を促す ・シンポジスト（看護師）と指定討論者（他職種）の間での発表内容の事前の共有を促す
シンポジストに向けて	・看護師としての実践活動のプロセスを中心に発表してもらうように依頼する
指定討論者に向けて	・看護師の実践活動を踏まえて、チーム医療の視点からコメント・質問を検討してもらう
座長に向けて	・発表内容の早期確定を通して、座長が会全体の構成を事前に検討できるようにする ・総合討論では、議論のまとめとともに、参加者と発表者の間での「医療従事者全体の共通認識」の形成を目指してもらう
今後に向けて	・今回のファシリテーション過程を記録し、今後の同様のスタイルでのシンポジウム開催につなげてもらう

解釈できるとした上で、シンポジストに対して、①タスクシフトによって、シフトされる側の看護師の負担が増加していないか、対応策は何か？②タスクシフト・シェア導入後の振り返りはどのように行っているか？という2つの質問が提示された。

6. 総合討論

指定討論での質問に対して、4名のシンポジストから、輸血業務における多職種連携では、互いの業務内容の理解不足が課題であること、看護師は多職種の業務を把握しており連携に適任であるが、タスクシフトにより負担が増加しているケースも存在することなどが回答された。

さらに、Web参加者から複数の質問があり、タスクシフトのメリット・デメリット、導入における課題、タスクシフト・シェアの今後の展望などについて活発な意見交換が行われた。

最後に座長から、本シンポジウムを通して、タスクシフト・シェアの現状と課題を共有し、今後のチーム医療や業務分担のあり方について考えるきっかけとし、多職種が協調性をもってタスクシフト・シェアを進めていくことが大切であると言及された。

考 察

本シンポジウムでは、輸血・細胞治療領域における看護師のタスクシフト・シェアの実践例と各施設での課題を共有し、他職種による指定討論を通じてタスクシフト・シェアにおける現状と課題について、多角的な視点で検討することができた。このテーマの今後の展望とともに、シンポジウム開催にあたっての「場づくり」の工夫について考察する。

1. 事前準備がもたらす多職種による議論の活性化

過去の関東甲信越支部例会での看護師関連シンポジウムは、その登壇者の中心が看護師であり、多職種連携がテーマの際には他職種が登壇することもあったが、今回³⁾のように事前準備の段階から多職種で情報共有するスタイルは、著者らが調べた範囲では初めてのものである。このスタイルの利点は、シンポジウムテーマの議論にあたり、シンポジスト、指定討論者そして座

長の準備状態（レディネス）を事前に高められることにある。実際に、今回のシンポジストと指定討論者は事前にテーマを検討し、シンポジウムの趣旨を理解し、各発表内容を事前に共有しており、それがシンポジウム当日の一貫性のある議論が展開される「場づくり」に極めて重要であったと考えられた。さらに、この事前準備と座長による全体構成の事前検討は、シンポジウムのスムーズな進行に有意義であった。参加者全員が安心して多職種連携に関する議論に集中できる環境を作り出す上では、関係者の共通理解・事前準備を促すファシリテーションが重要であることが示唆された(表3)。

2. 多職種連携による医療の質向上

厚生労働省は、「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」において、「患者へのきめ細かなケアによる質の向上や医療従事者の負担軽減による効率的な医療提供を進めるため、さらにチーム医療の考え方を進める必要」があり、「個々の従事者の業務負担を最適化しつつ、医療の質を確保する方法の一つとして、同じ水準の能力や価値観を共有した上で、医師—医師間で行うグループ診療や、医師—他職種間等で行うタスク・シフティング（業務の移管）/タスク・シェアリング（業務の共同化）を、これまでの「チーム医療」を発展させる形で有効活用すべき」と述べている¹⁾。本シンポジウムでの4つの実践例はいずれも厚労省の概念に通じており、医師の負担軽減とともに、看護師の専門性向上にもつながる実践であると考えられた（表2）。

また同検討会¹⁾では、臨床検査技師による輸血に関する補足説明は制度上可能であることが示され、それを導入した施設では、患者理解と看護師連携が向上したことが報告されている⁷⁾。本学会の輸血チーム医療に関する指針⁸⁾では、輸血医療は医師、看護師、臨床検査技師が連携するチーム医療が重要とされているが、実際にはシフトされる側の負担増加、教育体制の整備、職種間の連携などの課題が残されている。この克服には、関係する医療者全体で情報を共有し、実施内容を評価すること、そして改善を続けていくことが必要である。

3. 振り返りの重要性

本稿の作成は、シンポジウム開催の経緯の詳細を振り返る機会となった(表2)。本報告には、以下のような2つのレベルでの「振り返り」の重要性が見いだされる。

(1) 自施設の実践の振り返り

各シンポジストや指定討論者にとっては、自施設での実践について、その導入経緯や実施してから見えた課題などを包括的に振り返る機会となった。さらに、シンポジウム内での議論を通して今後の改善への気づきを得る機会ともなった。

(2) 多職種連携に関するシンポジウム開催までのプロセスの振り返り

今回の一連のプロセスを振り返り報告することは、シンポジウム開催者と参加者だけでなく、本領域に関わる医療従事者全体との間で、多職種連携の強化を通じたタスクシフト・シェアの質の向上に向けた共通認識の形成に寄与できると考えられた。

4. 今後の展望

本シンポジウムが、参加者にとって輸血・細胞治療領域におけるタスクシフト・シェアの多様性を理解し、自施設での取り組みの「振り返り」から今後の課題を抽出・検討する重要性を認識する機会となり、今後のタスクシフト・シェアのさらなる推進につながる事が期待される。そして、本報告が、多職種連携による安全で質の高い輸血・細胞治療を推進していくためのシンポジウム開催のあり方を考える機会になることが期待される。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

謝辞：本シンポジウムの開催に協力いただいた各施設の皆様、当日参加いただいた皆様に深謝する。

文 献

- 1) 厚生労働省：医師の働き方改革の推進に関する検討会。
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05488.html
(2025年3月現在)。
- 2) 日本看護協会：看護の専門性の発揮に資するタスク・シフト/シェアに関するガイドライン及び活用ガイド。
https://www.nurse.or.jp/nursing/shift_n_share/guideline/index.html (2025年3月現在)。
- 3) 日本輸血・細胞治療学会：第159回関東甲信越支部例会ホームページ(総会・例会)。
https://yuketsujstmct.or.jp/society_branch/branch_kanto/ (2025年3月現在)。
- 4) 三田地真実, 中野民夫, 岡田徹太郎, 他：オンラインで学生の関係性を構築するための場づくりの工夫—ファシリテーションの視点からの見直し—(自主企画シンポジウム)。第28回大学教育フォーラム(2022年3月16日)。
- 5) 三田地真実, 田熊 立, 鶴沢敦史, 他：支援会議を活性化させる「ファシリテーション」(6) 福祉現場の会議に活かすファシリテーション(自主企画シンポジウム)。第60回日本特殊教育学会学術総会(2022年9月18日)。
- 6) 三田地真実, 松山康成, 河村優詞, 他：行動分析学を社会に広めるために(2) 対象&ターゲット行動で分類した“包括三層モデル”で方略を整理する(自主企画シンポジウム)。日本行動分析学会第42回年次大会(2024年9月13日)。
- 7) 日本輸血・細胞治療学会ニュースレター 第24号 2023年9月。
<https://yuketsujstmct.or.jp/wp-content/uploads/2023/09/9723a459ff3378900cc1ea686c9cd2a2.pdf> (2025年2月現在)。
- 8) 日本輸血・細胞治療学会：輸血チーム医療に関する指針(第5版)。2017年12月。
<https://yuketsujstmct.or.jp/wp-content/uploads/2017/12/787520f58e91975cfa77fla3c641b96c.pdf> (2025年3月現在)。

**A REPORT ON SYMPOSIUM ON TASK SHIFTING AND SHARING
BY NURSES IN BLOOD TRANSFUSION AND CELL THERAPY
—SIGNIFICANCE OF DEVISING A “Forum” FOR DISCUSSION OF NURSES’
DIVERSE RELATED PRACTICES WITH MULTIDISCIPLINARY MEDICAL
PROFESSIONALS—**

Hiromu Inokoshi¹⁾, Tomohiko Sato²⁾*, Emi Nakano³⁾, Takako Sato⁴⁾, Chikako Taniguchi⁵⁾, Osamu Ishii⁶⁾,
Tatsuya Sugimoto⁷⁾, Mihiro Torigoe¹⁾, Akito Nozaki⁸⁾ and Makoto Kaneko⁹⁾*

¹⁾Department of Nursing, Radiology and Central Clinical Services (in charge of the Department of Transfusion Medicine and Cell Therapy), Chiba University Hospital

²⁾Division of Transfusion Medicine and Cell Therapy, Jikei University Hospital

³⁾Department of Nursing, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital

⁴⁾Hematopoietic Stem Cell Transplantation Coordinator, Tokyo Medical University Hospital

⁵⁾Department of Nursing, Tokatsu Clinic Hospital

⁶⁾Department of Nursing, National Hospital Organization Sagamihara Hospital

⁷⁾Clinical Laboratory and Blood Transfusion Service, Tokai University Hospital

⁸⁾Department of Transfusion Medicine, Yokohama City University Medical Center

⁹⁾Department of Clinical Laboratory, Mitsui Memorial Hospital

Keywords:

Nurses, Task shifting and sharing, Transfusion medicine and cell therapy, Multidisciplinary collaboration, Facilitation

* These authors contributed equally.

©2025 The Japan Society of Transfusion Medicine and Cell Therapy

Journal Web Site: <https://yuketsu.jstmct.or.jp/>